

1. 研究主題

「主体的に考え、共に高め合う児童の育成」  
～考えを伝え合い、学びを深める授業を通して～

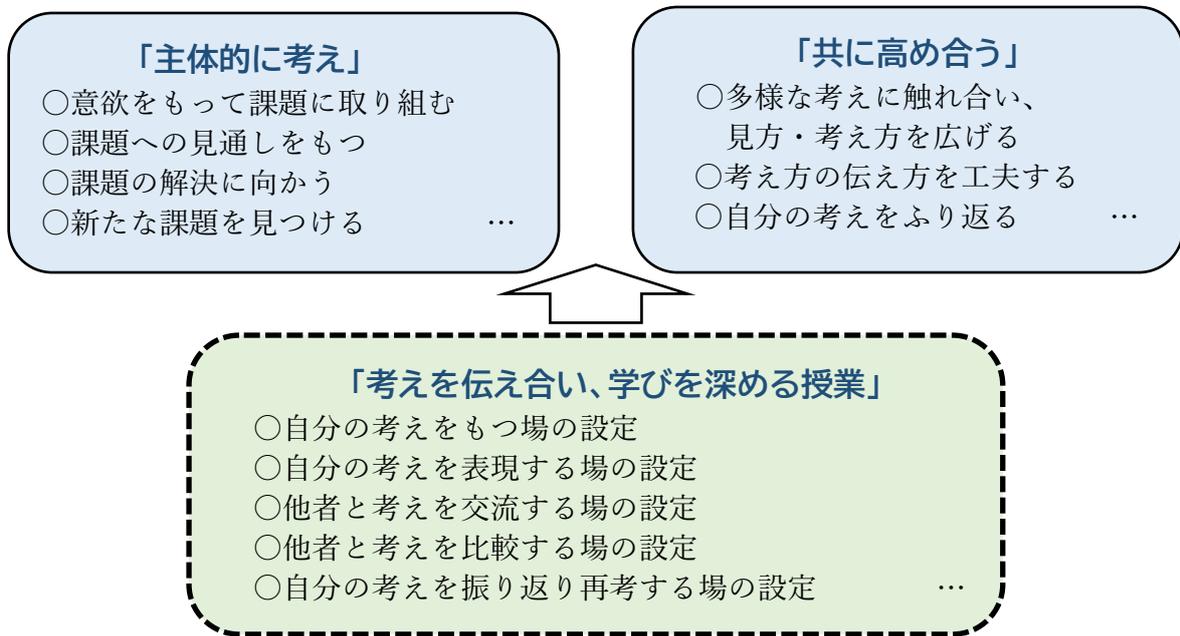
2. 研究主題設定の理由

天神小学校の開校に向けた、水元小・高砂小職員からなる準備委員会の話し合いの中で、統合後の課題の一つとして、自分の考えを表現することに苦手意識のある児童が多くなるのではないかという声があがっていた。

その根拠の1つ目は、統合前の2校の室蘭市標準学力検査の結果から、考えを表現することに課題がみられていたことである。また、2つ目は、両校で児童対象に行ったアンケート結果からも、自分の考えを表現することに苦手意識がある児童が多いという結果が得られていたことである。

これらの実態に加え、統合しての新たな環境下において、考えを表現することに一層の抵抗が感じられると予測されることも課題としてあげられた。

これらの課題解決のために、互いの考えを認め合える環境をつくり、「考えを伝え合いながら学びを深める授業づくり」を構築していくことを土台として、「主体的に考え、共に高め合うことができる児童」を育成していきたいと考え、本主題を設定した。



「考えを伝え合い、学びを深める授業」づくりのためのアプローチ

▶視点1 意図的に交流の場を設定した授業づくり

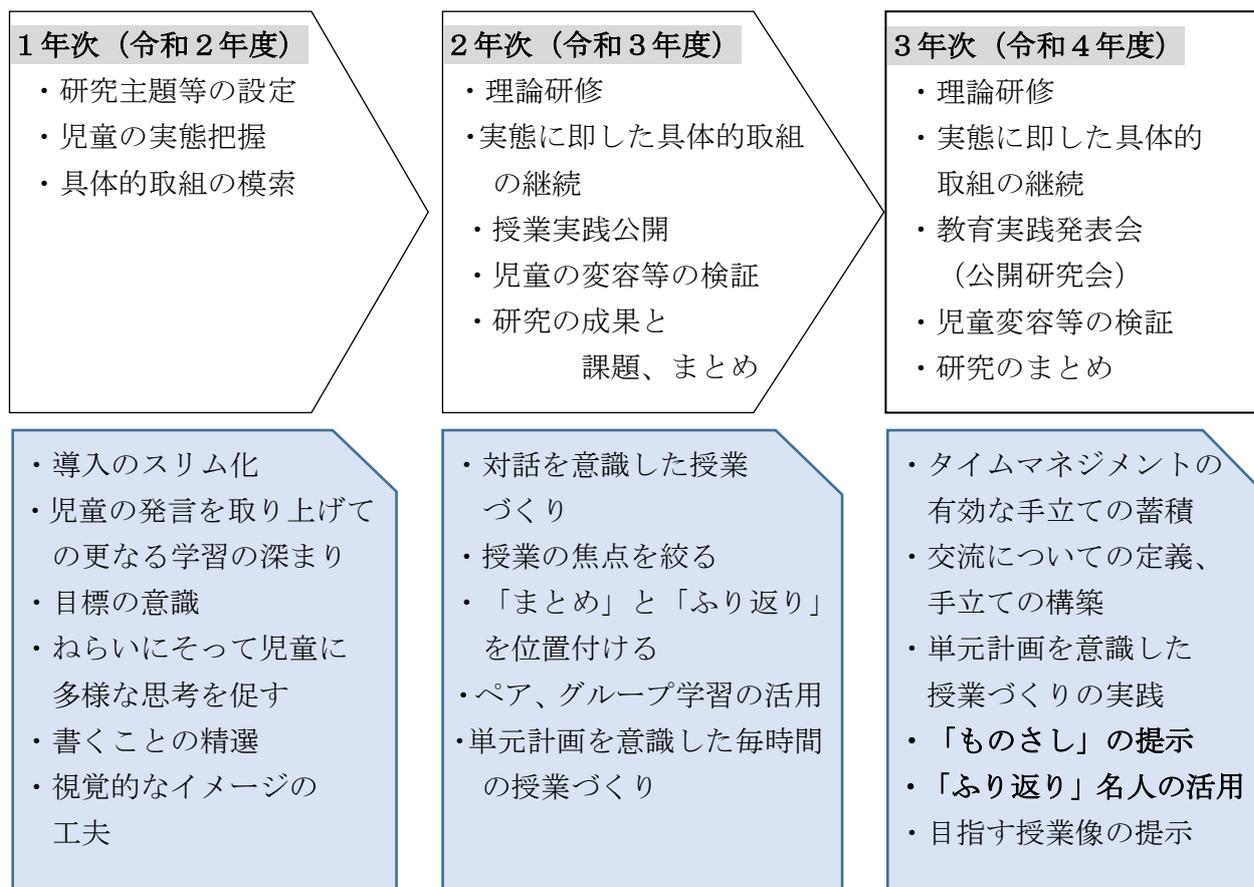
- 交流形態の工夫 ○交流の場面設定の工夫 ○目的を明確にした交流
- 学習過程のどの段階で交流を行うか 等の視点を授業づくりに活かす

▶視点2 タイムマネジメントを意識した授業づくり

- 導入の短縮化 ○自力解決への手立ての工夫 ○明確な発問や指示
- ICT 機器の活用等の視点を授業づくりに活かし、タイムマネジメントを実行し、生み出された時間を「考えを伝え合い、学びを深める学習活動」へ

### 3. 研究の経過と研究の組織

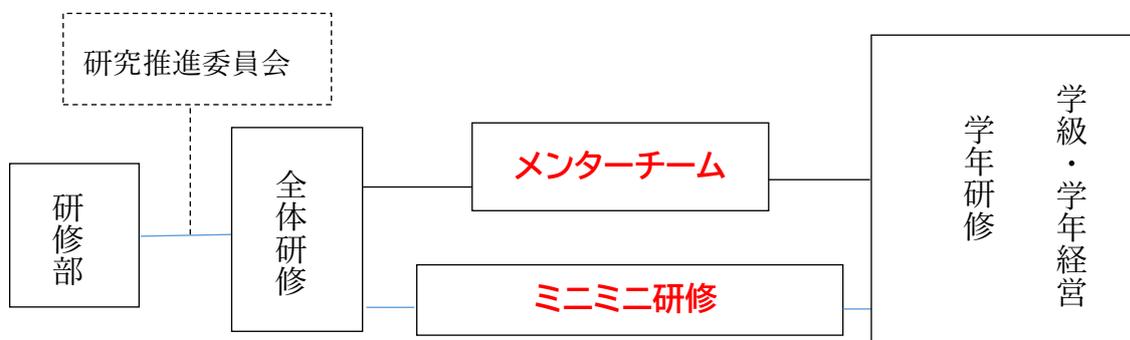
#### (1) 研究の経過



※開校と同時にスタートした研究であることから、前述の通り、統合前にそれぞれが抱えていた児童の実態・課題、よさや持ち味を出し合い、焦点を定めた上で進めてきた。そのため、年度途中での方向修正を繰り返しながら研究を推進してきた。

#### (2) 研究の組織

コロナ禍でのスタートであったことから、全体での研修が思うようにできず、下の通り、「メンターチーム研修」をメインとし、組織的な研究になるよう工夫してきた。

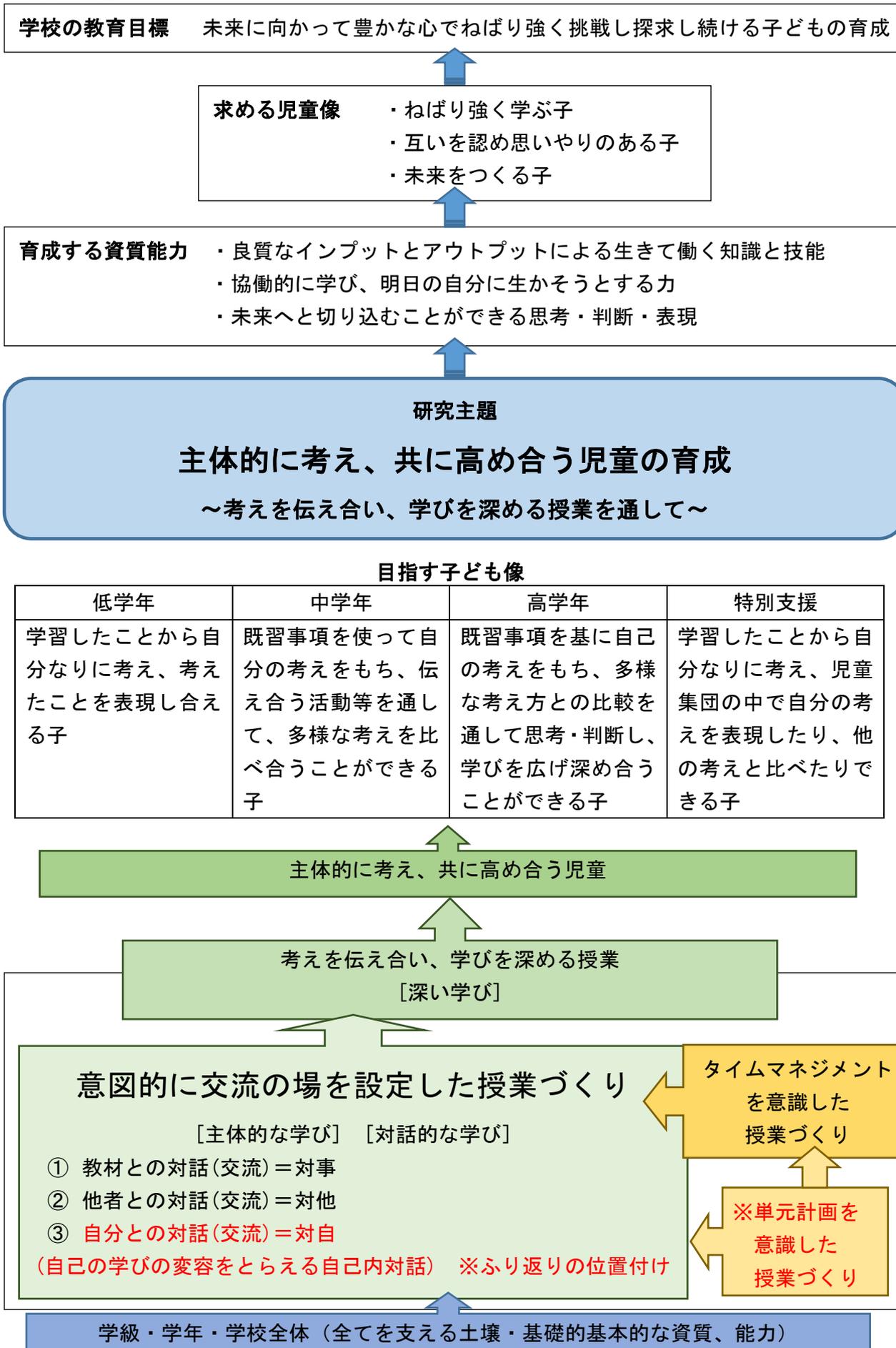


※メンターチームは各教職員の経験年数によって均等に分けて組織する。

30年以上→メンター 10年以上→ミドルリーダー 9年以下→メンティー  
(令和4年度は学年ブロックによってチームを編成)

※ミニミニ研修は互いに講師となって、実技・理論・ICT等を学ぶ15分間の研修

4. 研究の構想



## 5. 研究の具体

### (1) 意図的な交流の場の設定 (対話)

「意図的に交流の場を設定した授業づくり」をすることが

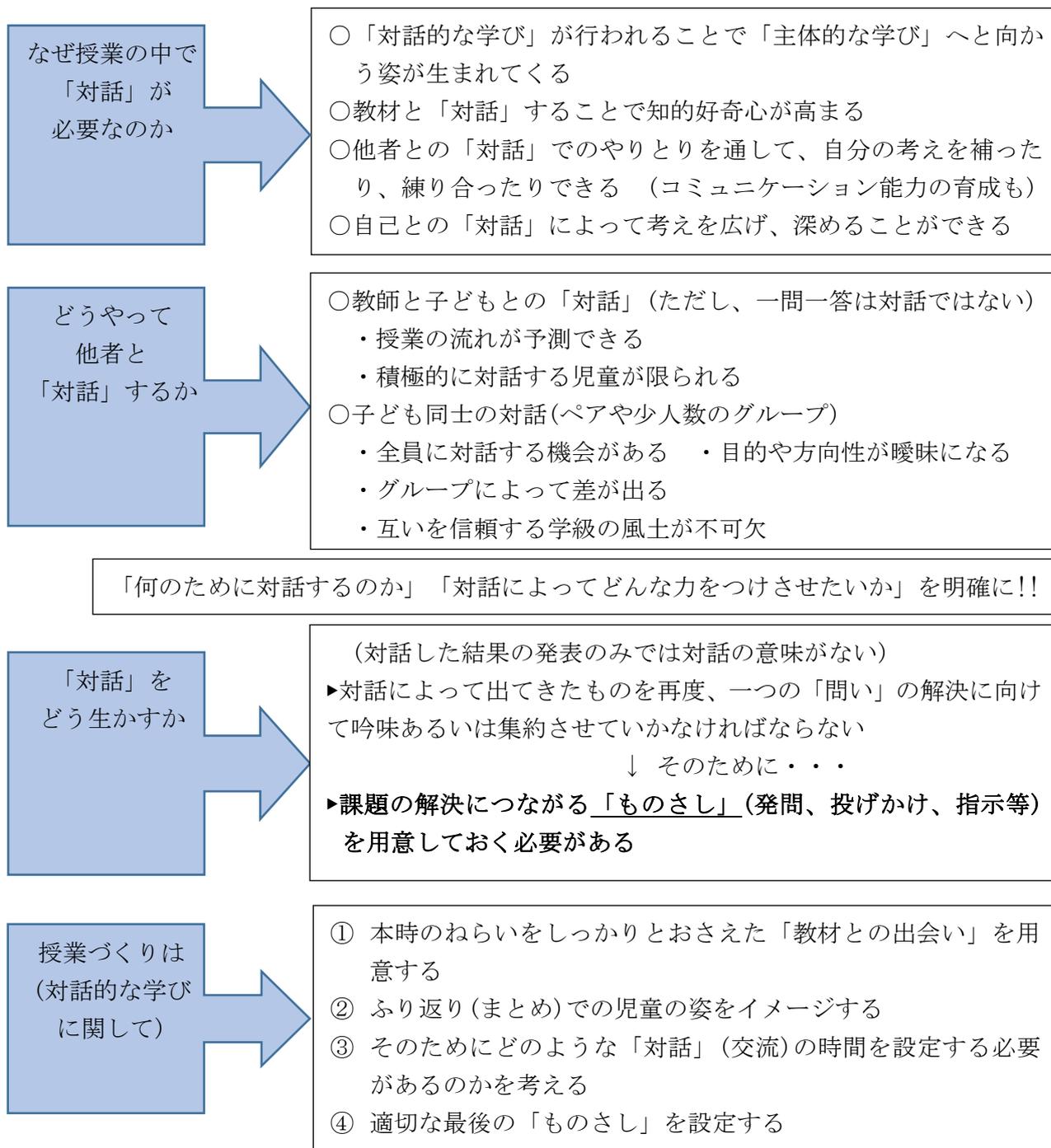
→ 「考えを伝え合い、学びを深める授業」につながり、その中で学ぶことによって

→ 「主体的に考え、共に高め合う児童」に育っていくのではないかという仮説

※交流＝対話としておさえると、対話には

①教材との対話(交流)＝対事 ②他者との対話(交流)＝对他 ③自己との対話(交流)＝対自

この3つがあると定義する。



※「対話的な学び」を全ての授業で行う必要はない。単元や単位時間の目標に合わせて取り入れる。

(2) タイムマネジメントと振り返りを意識した授業づくり（単元計画と振り返りの意識化）  
 令和3年度までの研究を受け、令和4年度の研究で意識したものは  
 「単元計画を意識した授業づくり」と「ふり返りを位置付ける」の2つである。

▶「単元計画を意識した授業づくり」はタイムマネジメントと意図的に交流を意識した授業づくりにつながっていくもの。

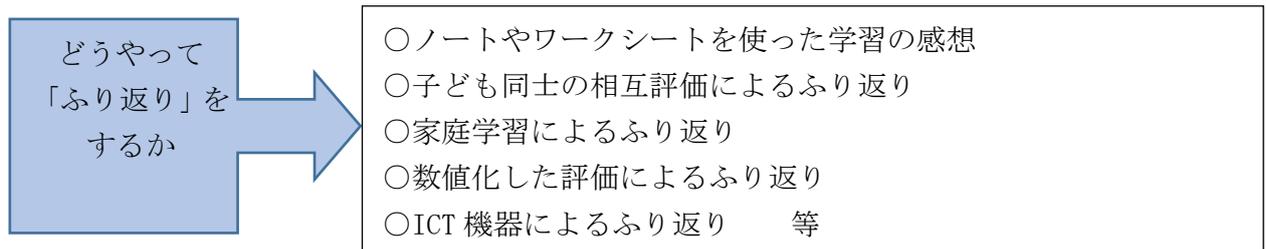
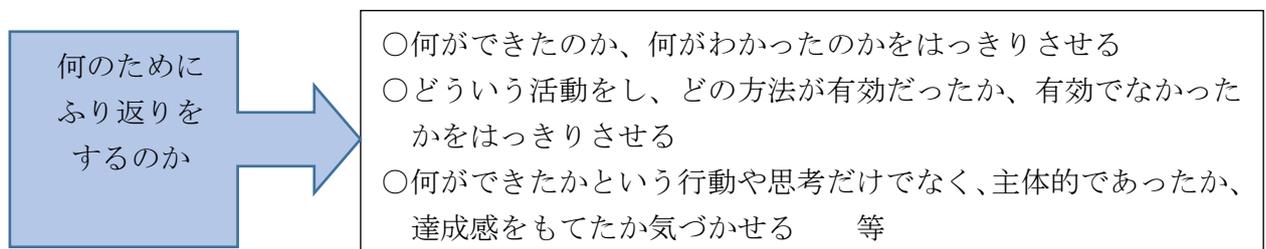
単元の中のどこで交流するのが効果的か(どんな交流が効果的か)

→そのためにどのような計画を立てていくか

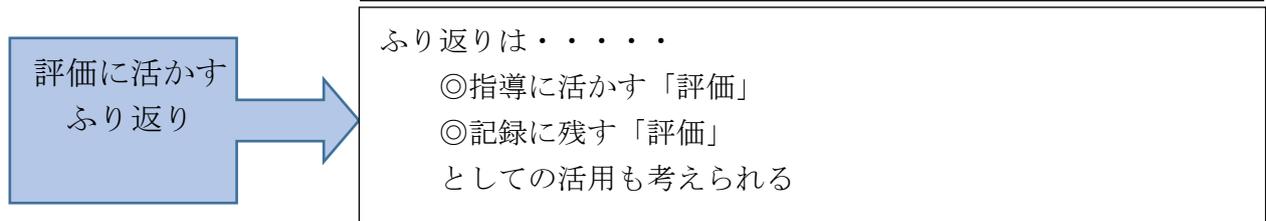
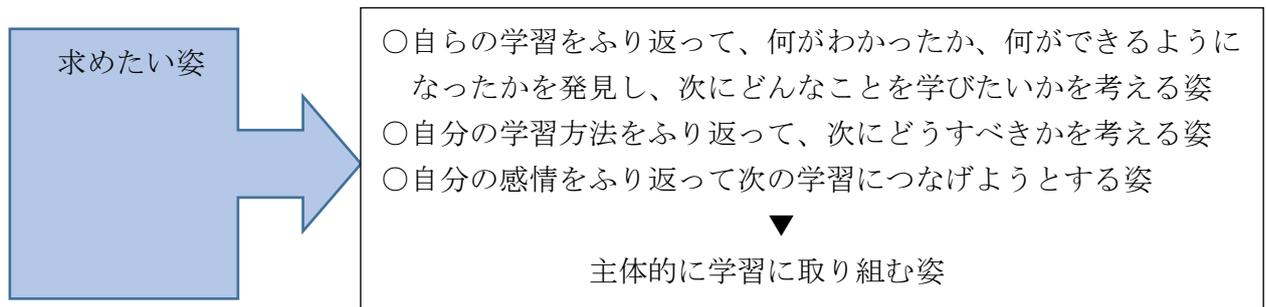
→交流の時間を作るためにどんな工夫ができるか

等を広い視野でとらえる

▶「ふり返りを位置付ける」は本時の学習の取組全体を見返して、学習内容と関係づけを図ったり、自己の学びの変容を自覚したりする活動。



大切なのは「ふり返し」が目的ではないということ。「ふり返し」が次の学びにつながらなくてはならない。教師も児童のふり返りを次の指導に生かす。



※一単位時間、あるいは単元全体の中で「ふり返し」の時間をきちんと設定するようにし、実践を通して得た成果と課題を「授業 NOTE」\*1に記録し、蓄積していく。

## 6. 研究の成果と課題

### (1) 研究の視点に関わって

#### ① タイムマネジメントを意識した授業づくり →3年間の継続視点

単元を見通した授業計画によって授業の流れがスムーズになり、授業のラスト5分間の確保ができるようになってきた。様々な手立てを活用し、導入を工夫することでタイムマネジメントと本時の課題把握が容易になってきている。

#### ② 意図的に交流の場を設定した授業づくり →3年間の継続視点

対事、対他、対自の視点から授業の中に様々な交流が盛り込まれてきている。ペア、グループ、全体だけでなく、視点を与えた交流によって学習の展開が進んできている。意図的な交流のためには、何のための交流か、どのような交流か、交流をどう活かすかを意識して授業づくりを進めていく必要がある。

#### ③ 単元計画を意識した授業づくり →昨年度からの継続視点

単元を見通した授業づくりによって、タイムマネジメントも改善できることが明らかになってきた。特に授業の導入部分で効果が現れてきている。また、学び方、進め方についても単元を通して継続した学習過程とすることで、子どもたちが自ら学べるようになっていくことが明らかになってきた。

#### ④ 「ものさし」の提示について →今年度の重点視点

最も効果的な「発問」以外にも、様々な手立ての蓄積がみられるようになってきた。交流をさせるだけでなく、「ものさし」によって自分の考えが変わった、やり方がわかった、新しいことに気づいた、というように自分の考えが深められるような手立てを意識していくことが課題である。

#### ⑤ ふり返りについて →昨年度からの継続視点

「ふり返り名人」\*2の活用等によってふり返りが簡単にできるようになってきている。また、文章や記号、挙手等を使った効果的な手立てが明らかになり、様々な選択が広がってきている。「自己の学びの変容をとらえ、学びに対する新たな価値や意義を感じ、さらなる学びへと向かう」ということを意識して「ふり返り」を授業の中に盛り込んでいく必要がある。そのためにもラスト5分間の確保が重要である。

### (2) メンター研修の効果

本校では、職員の経験年数をもとにチームに分けた「メンター研修」を実施し、その機動力を活かして研究を進めてきた。

#### ① 職員アンケートの実施

- ・効果的な学び合いのさせ方
- ・音楽や図工等実技教科の指導方法
- ・教室環境の工夫
- ・給食や清掃のシステム
- ・教材研究の方法
- ・ICT 機器の操作や活用の仕方
- ・子どもを主体的に授業に参加させる方法

アンケートにより、一人一人が抱えている悩みや学んでみたいことを明らかにすることができた。

## ② メンターチーム編成の工夫

教職経験年数をもとに、それぞれの世代が均等になるように4つに分けて編成し、前期と後期で入れ替えをする等して、多くの職員と触れ合えるよう工夫した。その結果、悩み相談や学級経営、子どもとの接し方等、多岐にわたる交流を日常的に行うことができた。

## ③ チームごとの内容交流

研修日には実施する内容についてプリントを配布し、チームごとに何を中心として授業づくりを進めるのか話し合いを繰り返した。研修終了後は、各チームの活動の内容を「メンター通信」を通して交流した。学年や学級の枠を超えた交流によって、日頃触れ合うことの少ない職員同士の意見交換が可能になった。各チームの取組の成果も、通信にまとめることで蓄積ができ、交流につながった。

## ④ ミニミニ研修の実施

教職経験の少ない教師からの「基本的なスキルを身に付けたい」という声にこたえるべく、1回につき15分という短時間で「ミニミニ研修」を実施した。教師がお互いに講師となり、学級経営や授業の基本的な技術について学ぶ機会とした。

## ⑤ メンター研修における、教師としてのスキルアップ

希望があればメンターの授業を積極的に公開し、短時間の話し合いの場も設けてフィードバックを行った。その中でメンティーからは、授業についての悩みだけでなく、学級経営や生徒指導についての悩みも聞くことができた。少人数で行うので、「すぐ」「その場」でできる研修であり、具体的なアドバイスが機を逃さずにできるよさがある。また、指導案の練り直しや検討過程の吟味等によって、授業づくりを掘り下げることができた。今年度は、ICTの連続講座を実施し、スモールステップでスキルを身に付けることができていく。「メンター研修」は本校の研究を支える土台であり、大きな特色といえる。

天神小学校研修部

Mentor ⇄ Menteeeeeeee 通信 No.2

2021/5/27

■5月28日(金) 第1回 メンター研修 14:45~

① 全体研修-延期

「天神小学校ふり学校歩き・お部屋探訪」の巻

昨年度意外と好評だったこの企画。何も準備がいらないのに、教室を回りながらそれぞれの先生方のちょっとした工夫やこだわりを説明してもらって「技」や「コツ」がつかめるというお得な研修です。しかし、緊急事態宣言下ですので今回は中止です。落ち着いた頃に実施します。でも、こっそりメンターの先生に声をかけてどんどん学んでください。掲示物を通して係のこと、当番のシステム、などたくさん学ぶことができますよ。

② チーム研修

「各チームの顔合わせ」と「チーム名」の決定

各チームが集まったら、まずは「チーム名」を決定してください。昨年度実施してみたら、チーム名からそのチームの考えが見えてきたりして、とても楽しいですね。今回はチームで顔合わせ、これぞという名前を考えてください。

◆前期のメンター研修の予定 日程は今後変更ありです。

→基本的に第3の金曜日 ▷ミニミニ研修は16:15から16:30の15分間(時間厳守)

日時	種別	内容	担当
5月28日(金)	メンター研修	お悩み相談会	
6月4日(金)	メンター研修	授業作り相談・授業検討・授業参観	
随時実施			
9月17日(金)	メンター研修	授業作り相談・授業検討・授業参観	

※チーム内で授業参観などの取り組みは自由、チーム内でなくても取り組みは自由。  
 どんどん声を掛け合って、見合います。要望がありましたら、津田まで、お待ちしております。

← チーム毎の研修内容を交流するための「メンター通信」

→ ICTにかかる内容に特化したICT通信の発行により、基本的なスキルと互いのノウハウを学び合う。

TENJIN'S PRIME TOOL

SAFE & CHALLENGE

Chrome book

子ども一番

2022年度 天神小

ICT 通信

35頁(カラー印刷)の冊子  
毎月1冊はらる

みなさんこんにちは。6月号で第1号の「サイジング問題」これについて、多くの協力をいただいております。

■サイジングに関するお悩みをみんなでお答えしたい。

- 1 1年生全員にロープ学習を奨励しにするかどうか
- 2 1年生全員にやらせるかどうか
- 3 中低学年にやらせるかどうか

※個人的には、1と2は中った方がいいと思いますが、3はなるべく避けたいと考えています。

配達してくれた先生方、ありがとうございます。質問にある通り、先生方の「こんなやつでみたよ」が共有できるという点も大変嬉しいです。「ICTミニ研」のクラスルームの

「授業」には、定期的にXが展開している中で、先生方もぜひ気軽に投稿してほしい! 授業を言えば、使っていた時の写真や動画、チームと一緒に添削してもらえると、なお「みんなで作った」になります。

自分の学習でどのくらい使っているか、授業のチェックリストを先日記録しています。見比べながら、おぼろげながらできるか、案外をやりまわしてみてください。

現在投稿されているものを私の一冊目「サイジング」4月号以上から「サイジング」授業チャムボードです。

次号: サイジングとロープ学習問題!

### (3) 児童の変容

「2. 研究主題設定の理由」の項で述べたように、本校が開校するための準備段階での懸念は、「自分の考えを表現することに苦手意識のある児童が多くなるのではないか」ということと、異なる環境で過ごしていた2つの学校の児童が一つになることにより、「自分の思いや考えを表現することに一層の抵抗感を感じる子どもたちが出てくるのではないか」ということであった。



しかし、開校から3年目を迎え、コロナ禍により学校の教育活動に様々な制約があるにもかかわらず、子どもたちは授業中に自信をもって自分の考えを発言し、互いの考えを聞き合おうとしている。

また、様々なアンケート等からも「自分の考えを発表する」ということに抵抗感が無くなり、自信をもち始めていることが明らかになってきた。令和3年度の子どもアンケート「友達の前で自分の意見や考えを言うことができますか」の項目では81%の児童が肯定的な回答をしていた。さらに、「友達と話し合うことができますか」の項目では93%の児童が同様に回答しており、全国平均を12ポイントも上回っていた。



令和4年度の全国学力・学習状況調査児童質問紙の「友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目でも全国平均と同じ80.3%の児童が肯定的な回答をしている。そして、「学習した内容についてわかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目では86.8%の児童が肯定的な回答をしており、全国平均の78.2%を大きく超えている。これは日頃から「考え

を伝え合い、学びを深める授業」の実践を積み重ねるべく、授業改善に取り組んできた成果であると考えられる。本校の研究が求める「主体的に考え、共に高め合う児童」の姿に近づいてきていることを明らかにしているといってもよいだろう。

授業中の児童の姿としては「〇〇さんの意見を聞いて思ったけれど…」等相手の考えを尊重しながら自らの考えを深められるようになり、自己内対話をする様子も見られるようになってきた。また、その他の教育活動の様々な発表の場面において、児童会の役員等限られた子以外でも、臆することなく表現できる子が多い。これは日常の授業の「意図的に設定された交流の場面」において自分の考えを表現することに慣れ、聞き合える安心感が身に付いているからと考えられる。



\*1【資料1】2つの視点に基づいて授業を振り返った「授業NOTE」

## 天神小学校 2022/授業 NOTE

授業実施日	学年組	教科	単元	授業者
12月2日	1年1組	国語	たぬきの糸車	津田 邦子

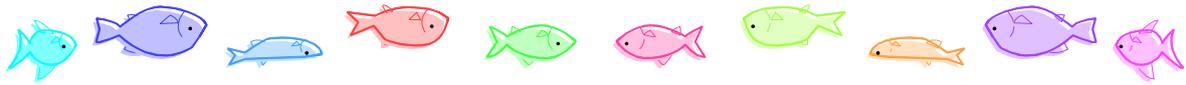
段階	学習活動	視点	視点	授業の手立て	子どもの姿
		①	②		
つかむ	◇教材との出会い (対事・対他・対自)		○	掲示物による前時までのふりかえり	場面ごとの登場人物の心情をふりかえっていた。
	◇解決のための見通しや手立て (対事・対他・対自)		○	気持ちやようすがわかるところに線を引く	たぬきやおかみさんの様子がわかるところにすぐに線を引いていた。
かんがえる	◇学習課題の確認 (対事・対他・対自)			本時の場面を板書で整理する	板書によって本時の場面の人物の位置や動きを確認していた。
	◇自分の思いや考えをもつ (対事・対他・対自)			ワークシートに人物のセリフを考えて書く	どんなことを話したのか想像しながら書き込んでいた。
	◆自分の思いや考えを表現して交流する (対事・対他・対自)	○		ペアでセリフを演じながら発表する	セリフとして発表し、お互いに見合うことで心情を考えていた。
ふかめる	◆自分の考えの深まり ※「ものさし」の提示 (対事・対他・対自)		○	なぜ嬉しかったのかを全体で話し合った	糸車を回せたことの喜びやおかみさんへの恩返し、更に自分がしたことを分かっただけで喜ぶにまで考えを深めていた。
	◇まとめ (対事・対他・対自)			読み取ったことを振り返りながら音読	読み取ったことを確認して音読していた。
	◆学びの振り返り (対事・対他・対自)		○	ワークシートへの記号の記入と感想発表	本時の学習に対しての感想を交流し、自分と同じ考えの時には挙手した。

[対事:教材との対話 対他:他者との対話 対自:自分との対話]

▶視点①意図的に交流の場を設定した授業づくり ▶視点②タイムマネジメントを意識した授業づくり

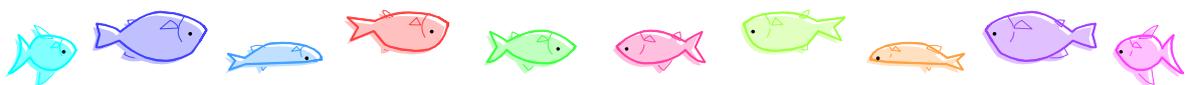
### [授業後記]

前時までの読み取りを活かしながら物語の終わりの場面を学習した。子どもたちはたぬきが糸車を回せたことの喜びについて共感することが多かった。今回の授業では、ペアで演じる中で出されたセリフから少しずつ自分の想像できなかった心情に気づき、深める体験が出来たように感じる。振り返りでの感想では物語の主題に迫る意見も出されるようになっており、全体への良い影響を与え始めているので今後につなげていきたい。



# 振り返り名人

- ①分かったこと。大切な事。
- ②わからないこと。
- ③できるようになったこと。
- ④学習の感想。
- ⑤自分のがんばり。
- ⑥前の学習とのつながり。
- ⑦友だちの考え。
- ⑧生活の中で役立てられそうなこと。



【4～6年生用】